2008 年度 小委員会活動成果報告

（2009 年 2 月 3 日作成）

小委員会名	バイオクライマティックデザイン小委員会	**主 査 名**：須永　修通 **就任年月**：2005 年 4 月
所属本委員会 **（所属運営委員会）**	環境工学本委員会 （熱環境運営委員会）	**委員長名**：井上　勝夫 **主 査 名**：鉾井　修一
設　置　期　間	2005 年 4 月　～　2009 年 3 月	
設　置　目　的 **各年度活動計画** **（箇条書き）**	・ 地域に付与された自然環境のポテンシャルを活用する設計手法の確立。 ・ アジア諸国を含めた熱帯・亜熱帯・温帯・亜寒帯における低エネルギー利用で高度な快適性の得られる建築に関する研究・設計事例の収集、分析評価。 ・ 上記に関するさまざまな要素技術の統合化手法についての検討。 ・ 上記に関する刊行物の発行（作成準備 WG を設立）。	
委員構成 **（委員名（所属））**	**委員公募の有無**：有 須永修通（主査・首都大学東京）、宇野朋子（幹事・東京文化財研究所）、斉藤雅也（幹事・札幌市立大学）、石原修（熊本大学）、岡本幹太郎（日本設計）、木村建一（元早稲田大学）、小玉祐一郎（神戸芸術工科大学）、宿谷昌則（武蔵工業大学）、菅原正則（宮城教育大学）、鈴木康司（OM研究所）、高間三郎（科学応用冷暖研）、辻原万規彦（熊本県立大学）、土屋美佳（東京大学）、野沢正光（野沢正光建築工房）、長谷川兼一（秋田県立大学）	
設置 WG **（WG 名：目的）**	バイオクライマティックデザイン事例集　出版ＷＧ 亜熱帯、温帯、亜寒帯における研究事例および設計事例の収集を行ない、これまでに蓄積したデータと合わせて、「バイオクライマティックデザイン事例集（仮名）」を設置期間内に発刊するため、出版本の編集、執筆者構成、出版社との交渉など、出版本に関連する取りまとめを行なう。	
2008 年度予算	170,000 円	**ホームページ公開の有無**：有 **委員会 HP アドレス**：http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s14/

項　　目	**自己評価**
委員会開催数	5 回
刊行物 **（シンポジウム資料等は除く）**	
講習会	
催し物 **（シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等）**	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 **（当初の活動計画と得られた成果との関係）**	１．バイオクライマティックデザインの設計・研究事例を収集し、情報の共有、分析評価を行った。 ２．バイオクライマティックデザインのあり方に関する刊行本（自然のポテンシャルを生かした、建築や住まい方やその支援に関する研究事例・設計事例の事例集）の出版に向け、出版 WG を設置した。本委員会で事例集を刊行するための準備を整えた。 ３．バイオクライマティックデザイン事例の視察を行った。（愛媛・日土小／7 月、茨城・つくばの家／11 月）。
委員会活動の問題点・課題	１．小委員会 WEB の活用

＊　小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

＊　中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2008 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	B
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	前頁の１）～４）の小委員会設置目標に対して、最終年度評価は以下の通りである。 １）地域に付与された自然環境のポテンシャルを活用する設計手法の確立。 自然のポテンシャルを活用する設計手法の確立については、本小委員会の委員をはじめとする研究者、実務家が計画設計手法の実践を行ない、小委員会や見学会等を通じて、当該手法についての普及・啓蒙に尽力した。 ２）アジア諸国を含めた熱帯から亜寒帯における低エネルギー利用で高度な快適性の得られる建築に関する研究・設計事例の収集、分析評価を行なった。 2006 年 11 月に本小委員会主催で実施した熱シンポジウムにおいて、上記内容についての研究・設計事例の収集や分析評価についての情報が整備された。 ３）上記に関するさまざまな要素技術の統合化手法についての検討。 上記１）に関連するが、統合化手法についても本小委員会に所属する委員、関係各位が議論を重ねて、本学会大会、各シンポジウム、論文集等にて発表を行なっている。しかしながら、統合化手法のデータベース等の整備は取り掛かり中で、この内容については、下記４）に示す刊行物に記載することを計画している。 ４）上記に関する刊行物の発行（作成準備 WG を設立)。 2008 年 4 月よりバイオクライマティックデザイン事例集　出版ＷＧを設立して、小委員会傘下の WG として委員会開催時と同じ日程で、議論を重ねている。出版本の内容に関わる事例調査として、2008 年 7 月に愛媛県の日土小学校、同年 11 月に茨城県の「つくばの家」を視察し企画案に反映している。新年度も小委員会に引き続き、活動を継続し、2010 年中の刊行を目指している。 以上のことから、小委員会設置目標に対して、総合評価は１）及び２）についてはほぼ 100%、３）については 70%（マイナス 30%はデータの整備が完了していない)、４）については企画案の作成が進んでいるが、刊行物の発行にまで及んでいないので 50%と判断した。 すなわち総合評価は、（100＋100＋70＋50）／4＝<u>80%</u>を総合評価とした。

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画･目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度

- 小委員会の活動に対し、第三者的評価･外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。